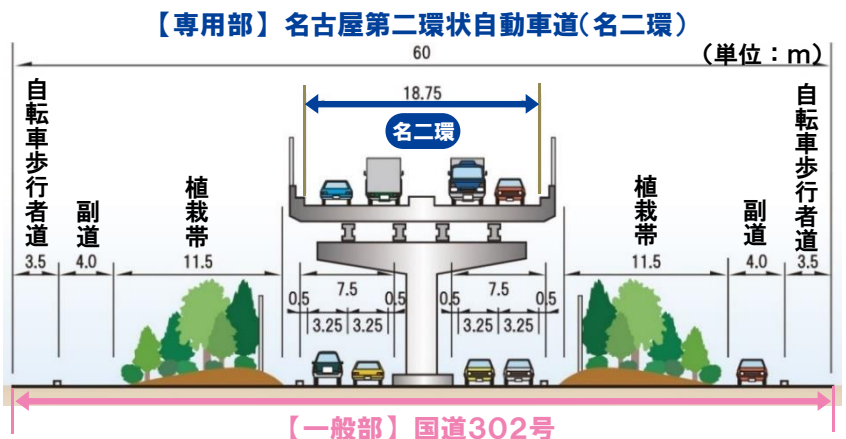
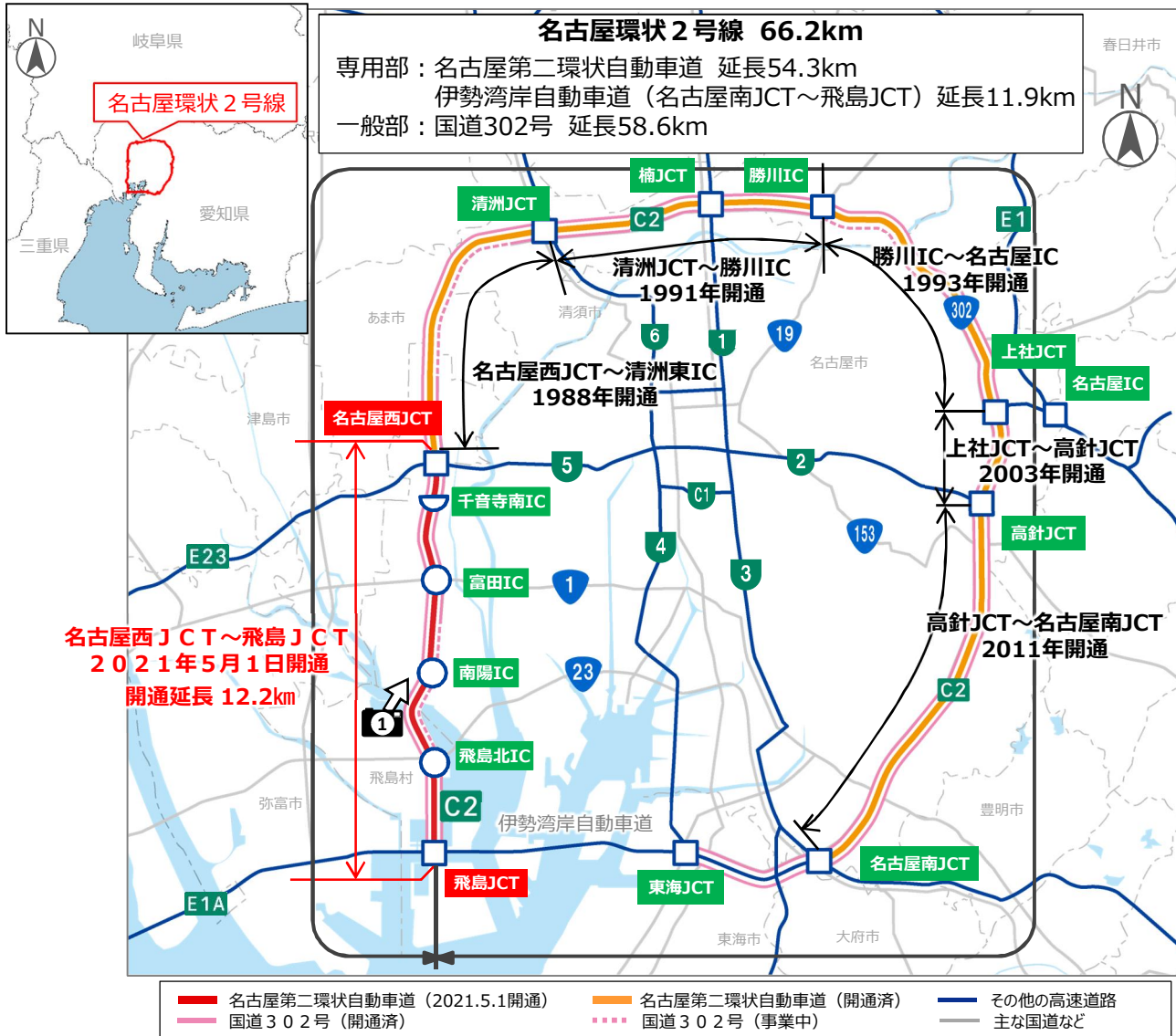


名二環開通区間の概要

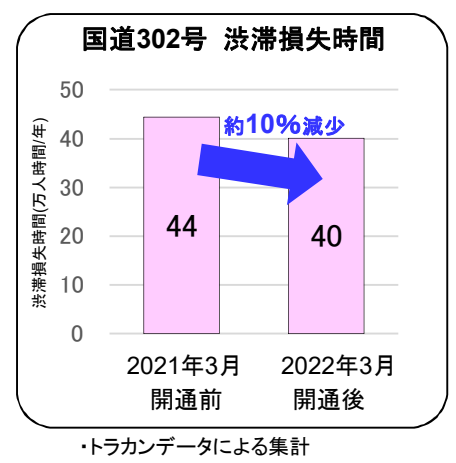
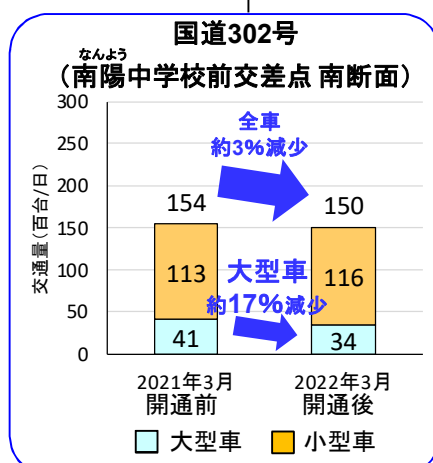
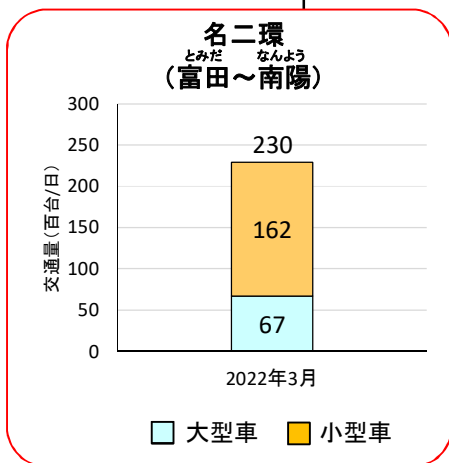
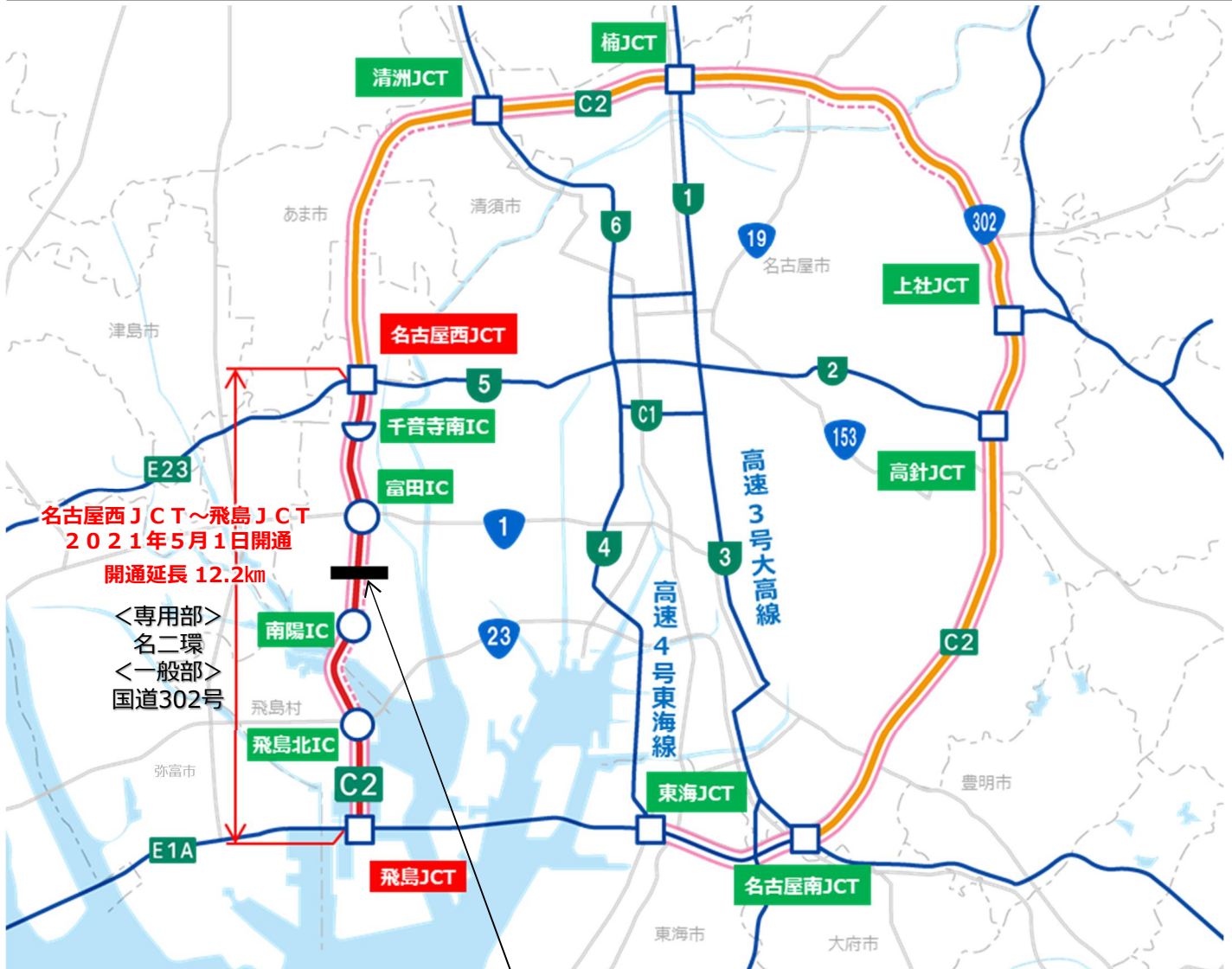
- 名古屋環状2号線は、高速道路（専用部）「名古屋第二環状自動車道（名二環）、伊勢湾岸自動車道」と一般道路（一般部）「国道302号」から構成されています。
- 名二環は1971年に事業化され、2021年5月1日に名古屋西JCTから飛島JCTが開通したことにより、全線をご利用いただけるようになりました。



名二環開通後の交通状況(1)

別紙1

- 名二環（名古屋西JCT～飛島JCT）の交通量は、2022年3月時点で約2.3万台/日利用されています。
- 開通区間に並行する国道302号の大型車交通量は約17%減少しています。
- 国道302号全体の渋滞損失時間は、開通前後で約10%減少しています。



【出典】・NEXCO中日本トラカンデータ
下記期間の平均値
2022.3.22~3.25、3.28

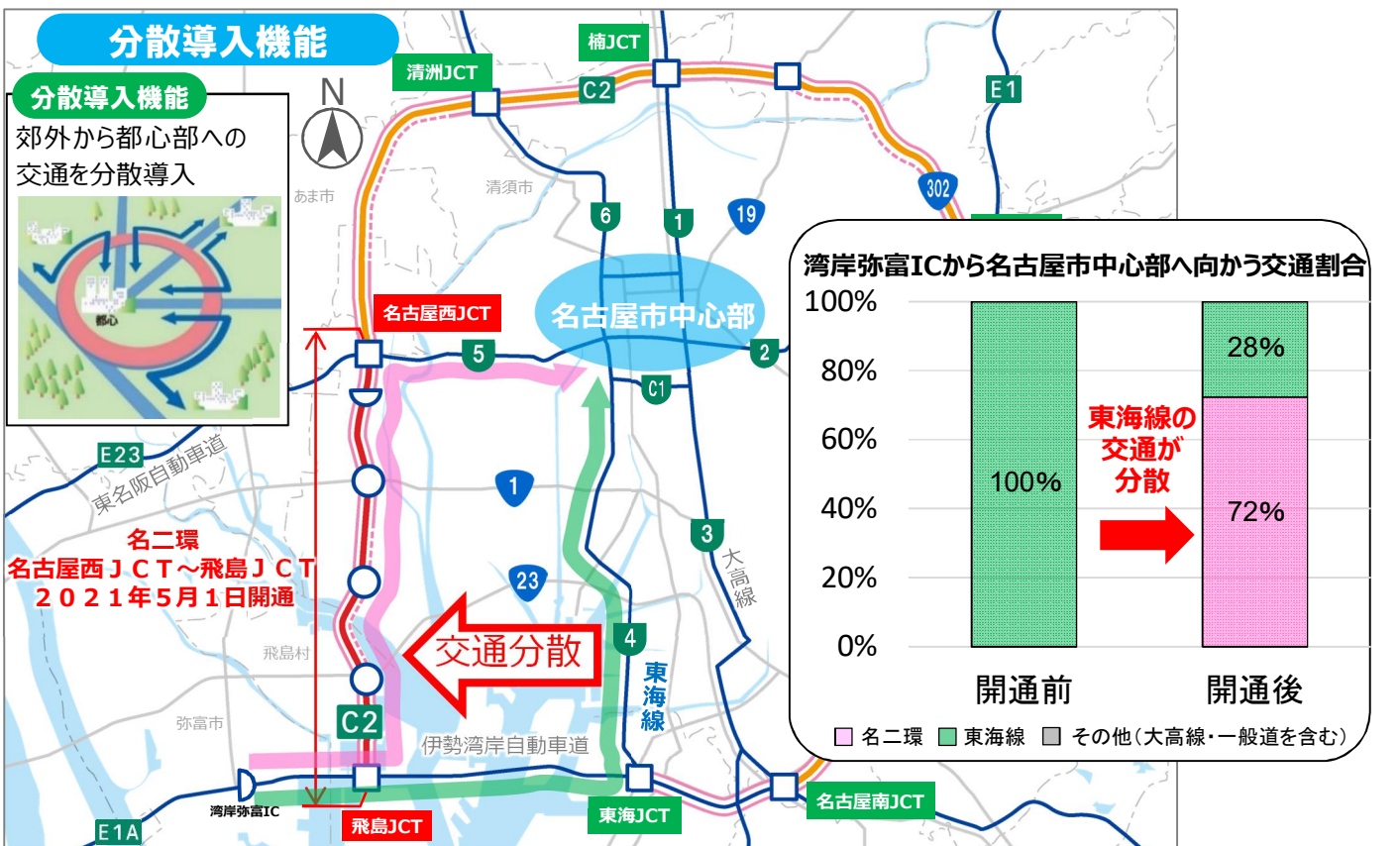
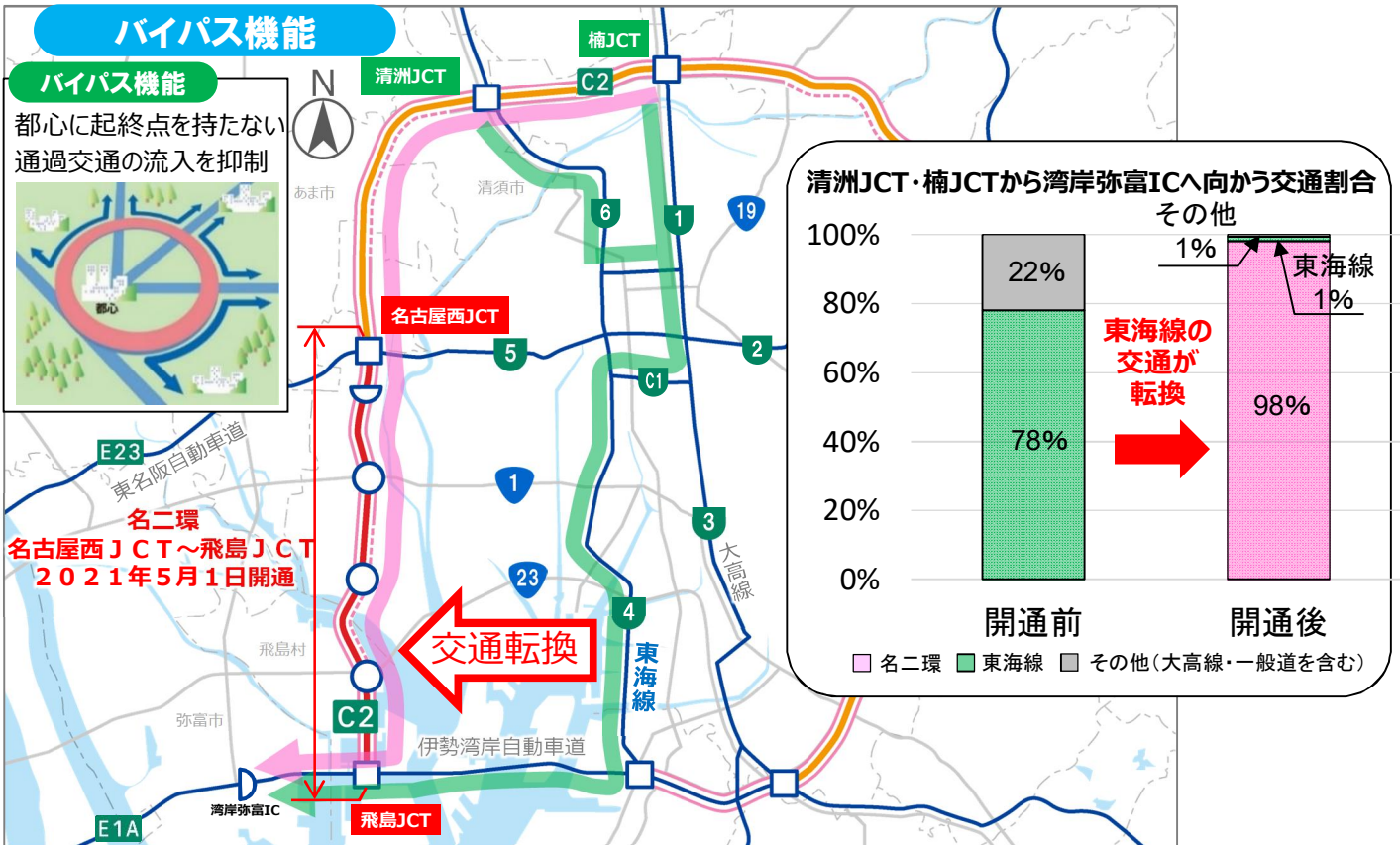
・国道302号 交通量調査
2021.3.3、2022.3.23
※交通量調査値(12h)に昼夜率を乗じて算出

・トラカンデータによる集計
2021.3.22~3.26、2022.3.22~3.25
※渋滞損失時間：渋滞が発生している時の所要時間と、渋滞が発生していないときの所要時間の差で算出する指標

名二環開通後の交通状況(2)

別紙2

- 通過交通が、名古屋高速から名二環に転換しています。
- 都心部に流入する交通が名古屋高速から名二環に分散しています。



■ 出典 ETC2.0プローブデータ
開通前: 2021.3.22~3.26、3.29~3.31
開通後: 2022.3.22~3.25、3.28~3.31

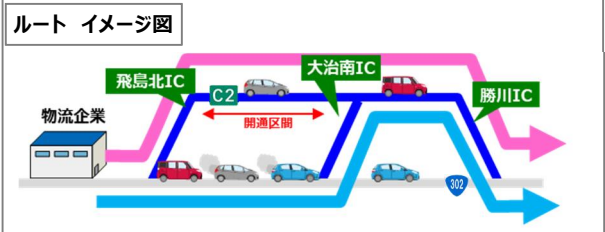
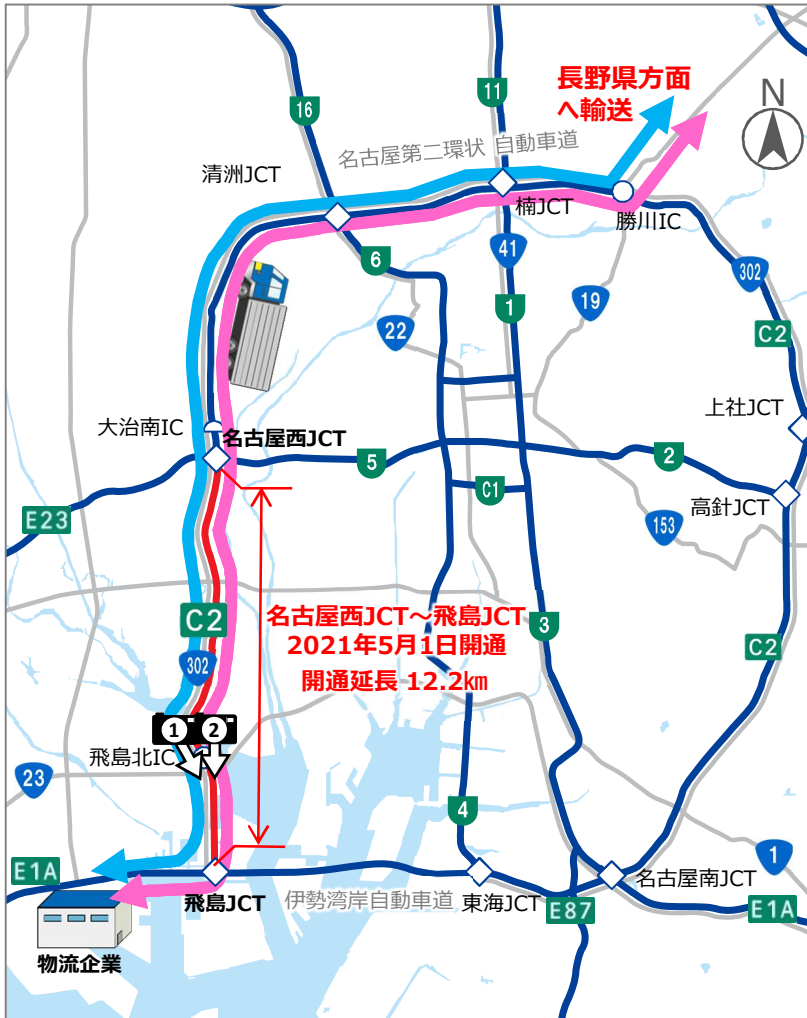
※バイパス機能: 楠JCT若しくは清洲JCTから湾岸弥富IC間の経路を集計
分散導入機能: 湾岸弥富ICから名古屋環状線出口及び東山線白川出口の経路を集計

新たな高速道路整備による輸送時間の短縮

別紙3

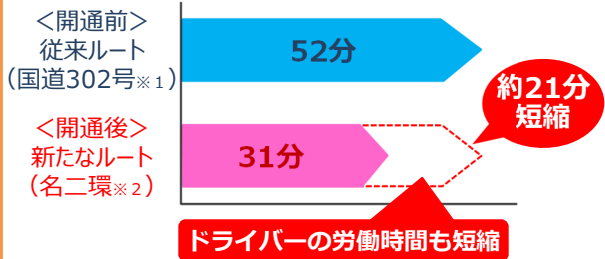
○名二環（名古屋西JCT～飛島JCT）の開通により、輸送時間が短縮され、トラックドライバーの労働時間削減に寄与しました。

名古屋港周辺に立地する物流企業の輸送経路



輸送時間の変化

<飛島ふ頭周辺～勝川IC>



出典：ETC2.0プローブデータ
 <開通前> 従来ルート：2021年3月（平日）
 <開通後> 新たなルート：2022年3月（平日）
 ※1：国道302号～大治南IC～勝川IC ※2：飛島北IC～勝川IC

企業の声

- 名二環の開通により、同区間の所要時間が短縮したため、ドライバーの労働時間削減に寄与している。
- また、名二環開通後は、ルートの選択肢が増え、交通状況判断しながらの輸送が可能になった。



出典：ヒアリング調査結果 2021.8

- 名二環（名古屋西JCT～飛島JCT）
- その他高速道路
- 一般国道など
- ➡ 従来ルート（国道302号を利用）
- ➡ 新たなルート（名二環開通区間を利用）

① 国道302号の交通状況（開通前）



梅之郷交差点南側を撮影（2008.5）

② 国道302号の交通状況（開通後）



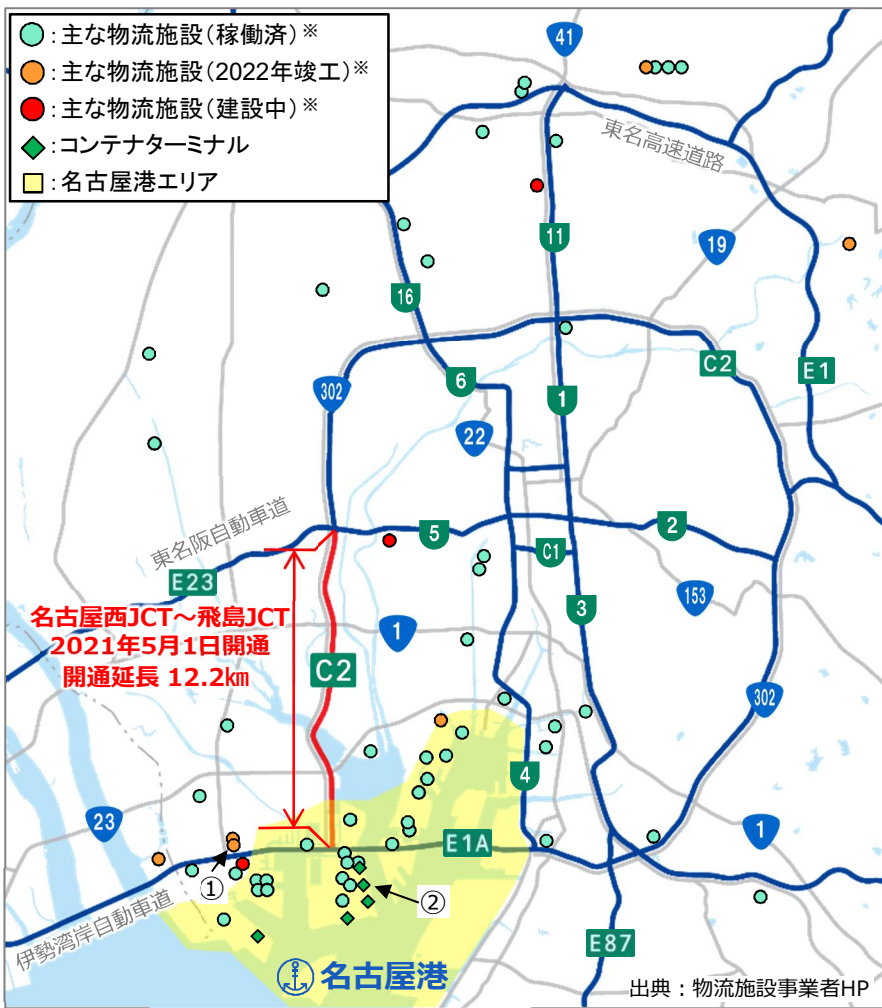
梅之郷交差点南側を撮影（2022.7）

名二環沿線に大型物流施設が相次いで進出

別紙4

- 名二環が直結する名古屋港では、コンテナ貨物取扱量が約30年間で2.5倍となり、コンテナターミナルの整備が進捗しています。また、名二環沿線では、物流施設の立地件数が約20年間で4.8倍に増加しました。
- 名二環が全線でご利用いただけるようになったことや、名古屋港（飛島ふ頭）及び物流施設の整備により、企業における物流機能強化、生産性向上が期待されます。

名古屋都市圏における大手事業者の主な物流施設立地状況



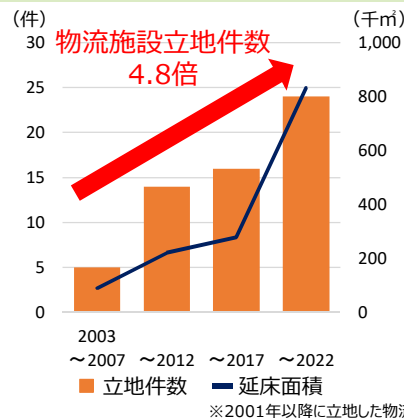
①大型物流施設

- ・施設規模
 延床面積：約280,000㎡
 ・着工：2020年11月
 ・竣工：2022年5月
 ・総事業費：約500億円

愛知県を中心とする東海地域でのマルチテナント型物流施設への需要から、弥富市に東海・北陸地域最大規模かつ24時間稼働の物流センターを新設

提供：物流施設事業者

名古屋市・弥富市・飛島村の物流施設立地状況



出典：日本立地総覧（日本立地ニュース社）
 物流施設事業者HP

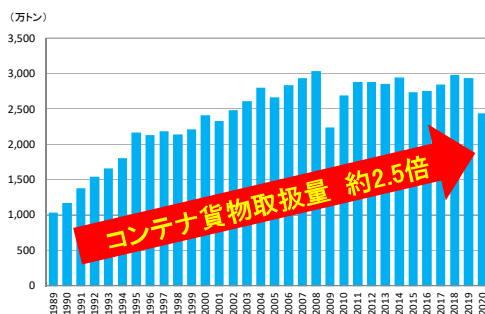
名古屋港（飛島ふ頭）の整備状況



整備目的：コンテナ貨物（自動車部品等）の増加による船舶の大型化に対応

出典：名古屋港 飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業（国土交通省港湾局）

<名古屋港（飛島ふ頭）コンテナ貨物取扱量>



出典：名古屋港管理組合「名古屋港統計年報」

企業の声

- 弥富市に建設中の物流施設は名古屋港への需要の高さや高速道路へのアクセス性などから立地を決めた。
- 名二環が開通したことにより、新たな南北軸のネットワークが形成され、名古屋市中心部へのアクセス性向上に期待している。



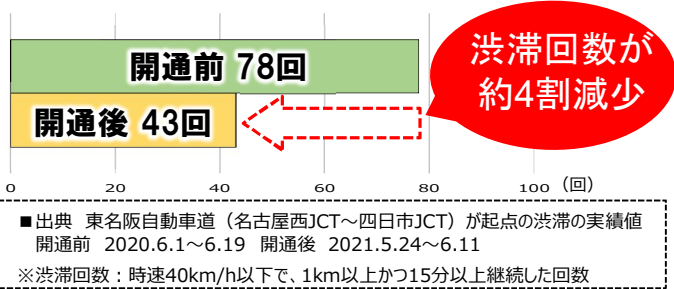
出典：ヒアリング結果 2021.10

- 名二環の開通により、新たな迂回ルートが形成され、集中工事中には、交通分散が図られ、東名阪道の渋滞回数が開通前に比べて約4割減少しました。
- 渋滞発生時においては、伊勢湾岸道における分担率が最大約8割となり、迂回機能が発揮されています。

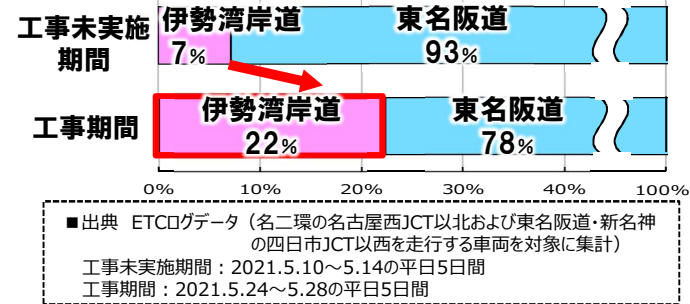
東名阪道集中工事時の迂回ルート



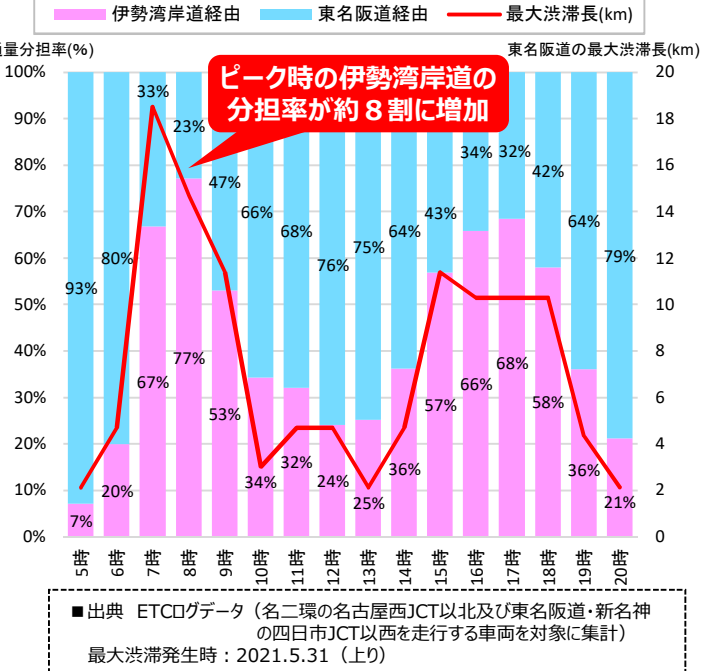
集中工事時の渋滞回数※ (東名阪道 名古屋西JCT～四日市JCT)



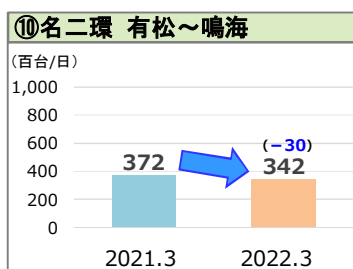
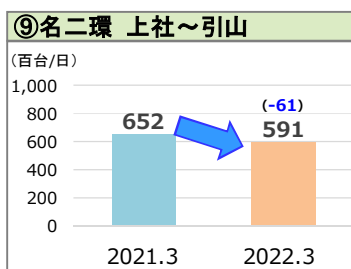
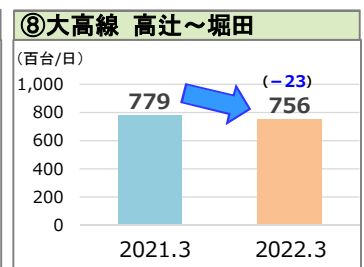
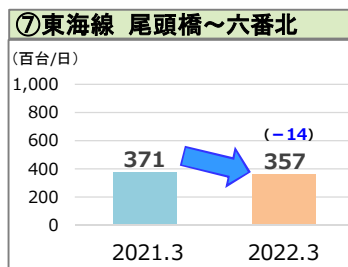
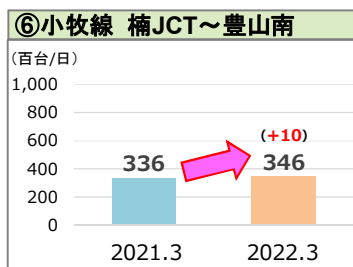
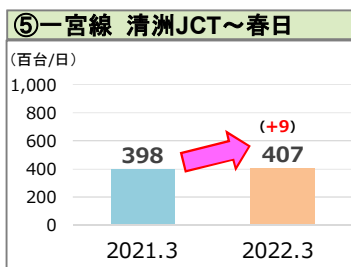
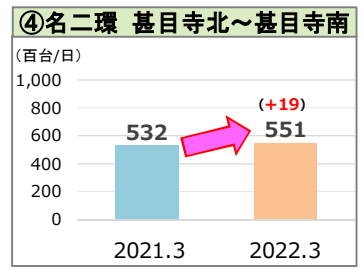
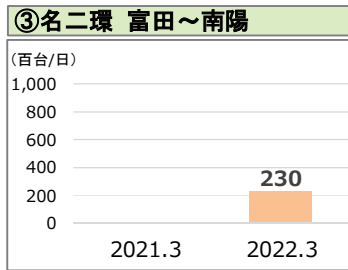
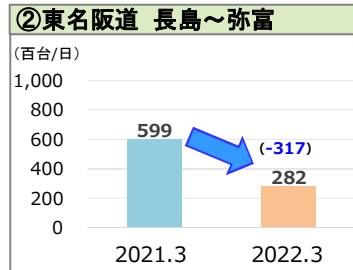
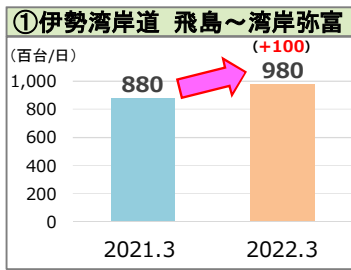
集中工事時の交通量分担率



最大渋滞発生時の交通量分担率 (5/31 上り(四日市→名古屋方向))



(参考)名二環及び周辺高速道路の交通量(1年後)



括弧書きは増減 (2022.3-2021.3)

【出典トラカンデータ】

下記期間のそれぞれの平均値

開通前：2021.3：2021.3.22～3.26

開通後：2022.3：2022.3.22～3.25、3.28